

西円山の丘

〔I〕 施設機構

1. 現 況

名 称	グループホーム 西円山の丘
開 設 年 月 日	2002年7月1日
所 在 地	札幌市中央区円山西町4丁目3番21号
事業内容及び付帯事業	①認知症対応型共同生活介護
施 設 定 員	2・3・4F 27名(1ユニット9名×3)
居 室 等 の 概 要	全個室(27室)

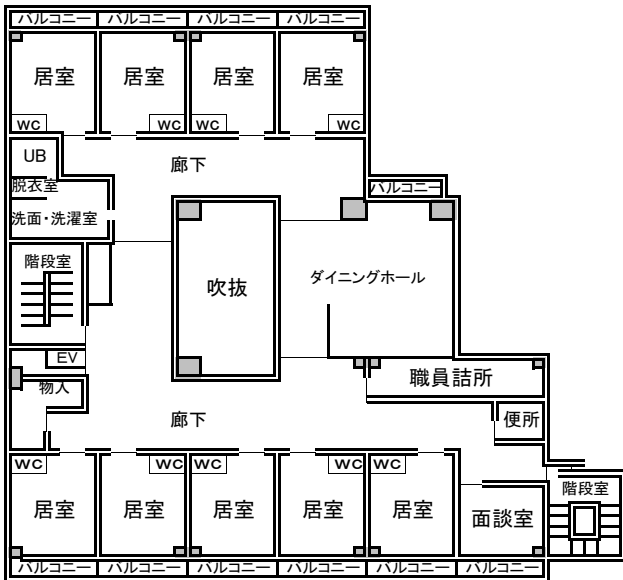
〔Ⅱ〕 建物概要

建物の概要

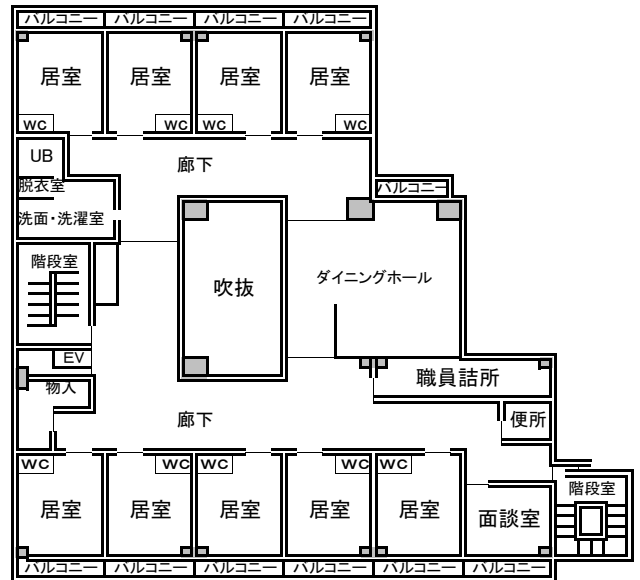
建物構造 鉄筋コンクリート造陸屋根4階建

建物延面積 1,673.18㎡

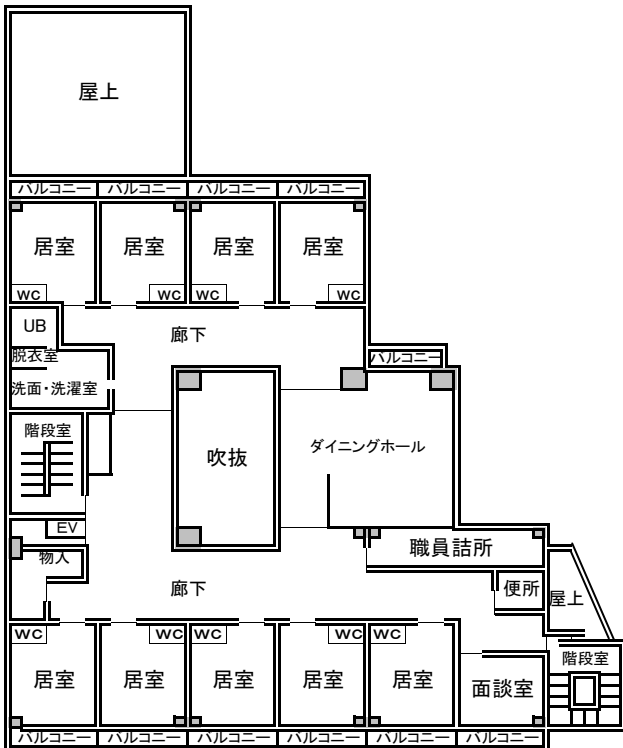
4階



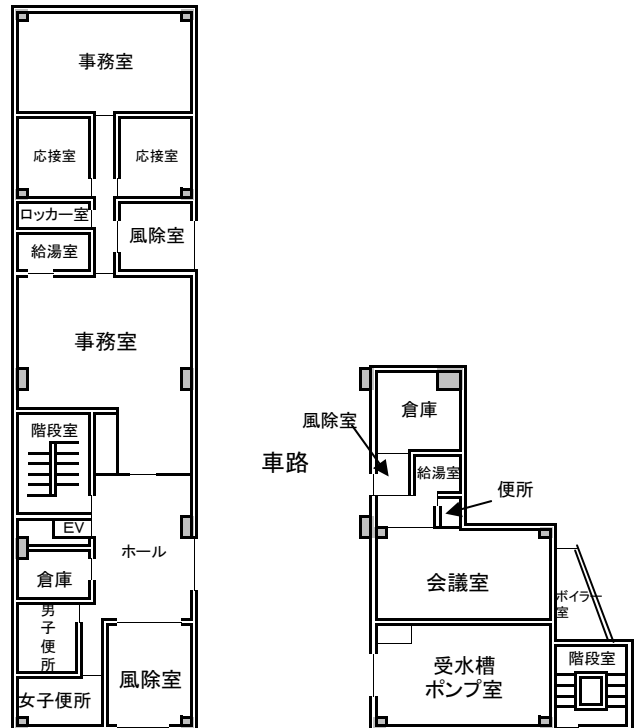
3階



2階



1階



2006年度 事業報告

グループホーム西円山の丘

【グループホーム（西円山の丘）定員：27名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>9,767 人</u>	<u>9,602 人</u>
一日平均入所者数	<u>26.7 人</u>	<u>26.3 人</u>
入所待機者	<u>6 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.2</u>	
協力医療機関	： <u>1. 西円山病院</u>	
	<u>2.</u>	
	<u>3.</u>	

2006 年度 事業計画

グループホーム西円山の丘

1. 基本方針

グループホームの本格的整備が始まって8年ほどが経つ現在、札幌市において、グループホームの数は200軒を超えている状況である。それに伴い、市はむこう3年間ぐらいの申請を受理しない方向も打ち出している。これはグループホームの乱立防止と、サービスの質の改善を進めていくためであると考えられる。

又、先の長崎県のグループホームでの火災事故、入居者9名中7名が亡くなってしまった、大変悲惨な事故から危機管理体制も問われ始めている。

これにより、サービスの向上を考えるグループホームが増え、全体の質の底上げが図れる一方で、利用者・その家族のサービスに対する眼が更に厳しさを増し、競争に拍車がかかり、選ばれたグループホームのみが生き残る現状と言えるであろう。

その中で、「西円山の丘」は、昨年度の方針にも掲げた「地域に根ざしたグループホーム」という考え方が、今後も重要であると考え、2006年度は「地域密着型」を掲げて進めていく中、この4年間で積み上げてきた基盤を振り返り、更にゆるぎないものを確立すると同時に、今回の介護保険の法改正で導入される、医療連携加算・グループホームでのデイサービス事業を視野に入れ、又コンプライアンスの行動基準を遵守し、運営することにより、利用者・家族はもとより、地域社会から信頼を得る努力をしていかなければならない。

2. 具体的目標

①【質の高いサービスの提供】

- ・訪問看護ステーションとの連携・看護師の配置等を検討しながら、入居者・家族に安心感を与えるサービスを確立する。
- ・本人、家族の希望・要望等に的確かつ迅速に対応し、サービスに繋げていく。
- ・入居者の状況をしっかりと把握した上で、常に最善のケアの提供に繋げる。

②【地域密着型の確立】

- ・地域で生活する高齢者に、コミュニケーション・関心を持って頂けるよう、町内会と協力し、地域介護教室等（年3回予定）を開催する。
- ・法改正に伴い、グループホームで実施できるサービス（デイサービス）を視野に入れ、地域の高齢者と深く関わることの出来る環境を確立する。
- ・入居者の方々が、町内会の催しに積極的に参加できるサポートを行い、地域への理解を深める。

③【透明性があり効率の良い経営】

- ・行政・外部評価等への積極的な情報公開を行う。（4月行政情報公開・6月外部評価等）
- ・年間平均入居者数26.7名を目標とし、待機者管理の徹底を図る。
- ・スタッフ全員がコンプライアンスを理解し、行動基準の遵守に努める。
- ・業務管理委託の見直しを行い、前年度管理費より15%削減を行う。

④【スタッフの生涯スキルアップの確立】

- ・スタッフの能力を把握し、必要な内部研修会を年4回開催することにより、質の向上を図る。（ケアプラン・基礎介護・栄養学等）
- ・外部研修会等に積極的に参加でき、そこで学んできたことを他のスタッフに伝え、周知できる場も整えることにより、「教え合える」・「自ら学習出来る」環境を確立する。
- ・資格取得を目指すスタッフから要請があれば、有資格者が出来る限りの協力を行い、互いに知識・技術のスキルアップを図る。（介護支援専門員・介護福祉士等）